

令和元年度一般社団法人日本カーシェアリング協会 事業報告書

令和元年度のテーマ『リニューアル』

< 重点事項 >

1. コミュニティ・サポート事業部

地域の中で楽しく愛着持って自動化できるカーシェア会を1地域実現！

～活動内容・サポート内容・意識をリニューアル！～！

2. ソーシャル・カーサポート事業部

各事業のプログラムをリニューアルし、社会貢献と収益性を両立させるオンリーワンの事業を行う！

3. モビリティ・レジリエンス事業部

事後対応から事前の体制作りへリニューアル！

4. 事務局

広報・ファンドレイジングのリニューアル、組織のスキル&チーム力アップを実現し、組織基盤を飛躍させる！

令和元年度は、2025年に達成を目指す目標を掲げ、その実現に向けて大きく組織を「リニューアル」させることに注力した1年でした。これまでやってきた活動を物おしせずに変えていき、変化に伴う痛みや負担も分かち合いながら受けとめて前に進んだ結果、1年前とは明らかに違う私たちなりの精一杯の「リニューアル」を遂げることができました。支えてくださった多くの方々に感謝申し上げます。

新規登録車両台数	:	146台
車両活用台数	:	240台（前年度比112台増加）※期末数値比較
会員	:	1名（前年度比±0名）※正会員:6、準会員:4団体
賛助会員	:	個人21名 企業1社（前年度比6名増加）

■ コミュニティ・サポート事業部

2019年テーマ「地域の中で楽しく愛着持って自動化できるカーシェア会を1地域実現！

～活動内容・サポート内容・意識をリニューアル！～」

今年度は石巻市内のカーシェア会の自動運営化と石巻市以外の地域への導入を進めてまいりました。

石巻市内での活動においてはカーシェア会へのサポートを効率化することと活動の内容を会員自身が運営しやすい形にできるような変化させることを意識しました。そのために業務の棚卸し、システム化された精算用シートの本格運用、地域サポーター制度の導入など様々な挑戦をしてきました。

目標に掲げていた完全に自動化できるカーシェア会は既存のカーシェア会では実現こそできなかったものの、新しく設立された会では自立意識を持った頼もしい会が生まれました。既存の会においてもその実現に向けて各カーシェア会の会員がより役割を意識し、できる範囲で自主的に運営していただくことができ、全体的に会員の意識の変化を感じることができました。

また、市外や県外でのコミュニティ・カーシェアリング（以下 CCS）の導入実績が増え、新たにスタートさせた CCS 視察プログラムによる受入れを多く実績を積むことができたため、石巻を雛形として他地域へ展開を行う

体制の基礎が整った1年となりました。

1. 『コミュニティ・カーシェアリング』

(1) 石巻市内の活動

- ・仕組みを見直し、石巻市内のカーシェア会の自動化を促進させる。
- ・見える化と効率化、ビジョン共有を意識したサポートを行う。

石巻市とCCSに関する平時の連携が2つの部署を通して行えるようになりました。まず、復興財源ではない財源で石巻市の福祉総務課から初めての案件として、山下南地区の導入支援を4月から委託を受け7月に石巻市内で10箇所目となるカーシェア会として設立しました。これまでの復興住宅を中心としたカーシェア会とは違い、地域に必要な仕組みとして町内会を中心に設立前の準備段階から自律的に進んでいくことができました。次に、7月には石巻市の包括ケア推進室に設立後のカーシェア会が活用できる「地域互助活動促進助成金」が創設され、9つのカーシェア会で助成を受けることができました。

CCSの経済的な体制強化のために、企業に協力いただく「CCS スポンサー制度」を9月に新設しました。現在、5つのカーシェア会がその制度によって、支援を受けています。

CCSの運営面の自立的な体制強化のために、会の事務局的活動を担う方を「地域サポーター」として任命し、手当の支給や研修等を行うことを11月に開始しました。

CCSの健康への影響・コミュニティとしての特徴などを見る化するために10月～12月に市内10地域のカーシェア会会員を対象に「コミュニティ・カーシェアリングの利用による生活の変化に関するアンケート」を実施しました。トヨタ・モビリティ基金助成事業として、東北大学大学院歯学研究科・上智大学コミュニティキャピタル研究会・株式会社日本総合研究所の3社の協力の下、実施しました。3月までに集計・分析されることになっています。

協会内部での体制としては、株式会社イミカの伴走支援の下、業務整理を行いました。サポート業務の棚卸しを実施し、協会スタッフとCCS会員(地域住民)に今後担ってほしい役割を仕分けすることができました。目的が明確になったことでスタッフ間の意識統一もでき、スタッフからCCS会員への役割の移行が一部進みました。

また、NTTデータプロボチームに、精算用シートシステムの本格導入のための開発協力を得ました。オンラインミーティングで精算用シートの課題を洗い出し、システムの修正や改良を重ね、これにより経営会議資料の入力作業の簡略化や、各カーシェア会の収支報告の会・定期総会資料作成の簡略化、業務負担の軽減に繋がりました。

カーシェア会が住民の手による自動(自律)運営している、という段階までには及びませんでした。地域サポーターの協力等によって、チラシの配布やイベント時の参加者集約、お出かけ企画に協会スタッフの同行なしで実施するなど、自動化に向け前進することができました。

■数値報告(石巻市内のみ)■

新規設立件数	: 1箇所(山下)
サポートしたカーシェア会数	: 10箇所(上記1箇所含む)
会員数	: 385名(前年度比:121名増)
平均年齢	: 75歳(昨年より1歳向上)
アンケート実施回数	: 7箇所実施(効果測定アンケート調査)
旅行回数	: 57回実施(前年度比:18件増)
車の稼働件数	: 3,871件実施
サロン活動(おちゃっこ会、収支報告会、総会等)	: 100回実施(前年度比:37件増)

【委託】 石巻市福祉部福祉総務課

【助成】 東日本大震災現地 NPO 応援基金(特定助成)JTNPO 応援プロジェクト、
『しんきんの絆』復興応援プロジェクト フォローアップ助成、第4回タケダいのちとくらし再生プログラム、
みやぎ地域復興支援助成金、トヨタ・モビリティ基金 地域に合った移動の仕組み

【寄付型助成】 宮城県中央共同募金会「みやぎチャレンジプロジェクト」

(2) 石巻市以外への活動

・他地域へ普及させるための仕組みを作る。

前年度作成した『コミュニティ・カーシェアリング導入サポートプログラム』を様々な地域に展開することができました。また、今年度は有償の視察プログラムを整理した結果、多くの地域や自治体等に視察に訪れていただきました。更に、大津市と普及促進させる連携協定を締結し、鳥取県や浪江町から専門家として依頼を受けて CCS の導入支援を行う等の行政との連携の実績を積むことができました。

他地域導入に向けてのノウハウが蓄積し、視察という導入に向けての非常に重要なプログラムが構築でき、行政との連携実績を得たことにより、より一層他地域へ普及させるための体制を強化させることができました。

■石巻市外で新規に立ち上げサポートを実施したカーシェア会■

合計 3カ所 (市外での設立累計 5カ所)

- ・滋賀県大津市「葛川イキイキサークル」
 - ・鳥取県米子市「永江ささえ愛カーシェアクラブ」
 - ・宮城県南三陸町「林際カーシェア会」
- (以下、会発足準備中)
- ・鳥取県大山町
 - ・福島県浪江町

■市外等からの視察受け入れ■

合計 9件

- ・東北大学(中央カーシェア会)
- ・山口大学(吉野町カーシェア会)
- ・鳥取県(中央カーシェア会・三ツ股カーシェア会)
- ・神奈川県秦野市(中央カーシェア会)
- ・福島県浪江町(門脇カーシェア会・大門町カーシェア会)
- ・宮城県利府町(吉野町カーシェア会)
- ・北海道厚真町社会福祉協議会(三ツ股カーシェア会)
- ・東京電力(新西前沼カーシェア会)
- ・茨城県東海村(大門町カーシェア会)

【委託】 鳥取県(共助交通を通じた地域人材育成の普及協議会)、大津市、浪江町

【助成】 トヨタ・モビリティ基金 地域に合った移動の仕組みづくり

2. 石巻エコEVカーシェアリング事業

石巻エコEVカーシェアリング検討委員会運営

行政・教育機関・関係者らで構成する検討委員会メンバーらでモデル化や政策連携を目指す定例会議を行いました。今年度は、前年度から調整を行ってきた福祉総務課が管轄する CCS 導入支援・包括ケア推進室が管轄する立ち上がったカーシェアグループの運営補助の制度化に向けた調整を行いました。また、介護保険課にも新たに検討委員会に加入いただき、介護予防における連携について様々な調整を行いました。

石巻エコEVカーシェアリング検討委員会会議開催：3回(1/24、4/3、10/2)

市長報告：1回(4/23)

充電設備の設置:1地域(三ツ股カーシェア会)

街づくり懇談会提案(5/20)

【介護予防・日常生活支援総合事業】を活用した地域の移動手段確保を考える勉強会(11/11)

助成 真如苑 市民防災・減災活動 公募助成、トヨタ・モビリティ基金 地域に合った移動の仕組みづくり

寄付 三菱電機株式会社

■ ソーシャル・カーサポート事業

2019年テーマ「各事業のプログラムをリニューアルし、社会貢献と収益性を両立させる

オンリーワンの事業を行う！」

本事業部は、寄付車を貸し出すことを通じて、組織の財政的な持続可能性を高めるとともに、寄付車が困難を抱える人を助ける機会の創出をしています。2019年度はより多くの人に安心して使っていただけるよう、レンタカー・カーリースプログラムに付加価値を付けてのリニューアルを実施しました。売上目標の達成はなりませんが、独自性のある事業が生まれた1年となりました。

1. レンタカー事業

新プログラムのリリースと地域イベントとのタイアップによる社会貢献と売上確保の両立

(1) ソーシャル・レンタカー

駅前北通り営業所のレンタカーの料金を改定し、パンフレットを刷新しました。その中でも大きく変更をしたのはメンバー価格の制度です。これまでは東日本大震災のボランティア活動に参加経験のある人は定価の半額で利用できるメンバー制度でしたが、組織の経済的自立を見据えメンバーの割引率を3割に改定しました。また、東日本大震災から8年が過ぎ、被災地への関心が薄まるなかで、石巻を訪れ震災で被害を受けた地域の様子を自分の目で見て、感じてもらうことに意義があると考えています。そこで、協会のレンタカーで大川小学校等の震災遺構や、復興まちづくり情報館をはじめとした伝承施設を訪れた際、メンバー価格でレンタカーを利用できるよう条件を追加しました。

さらに、利用者の利便性や運営上の操作性の改善を目的として、株式会社ガーデュが提供するオンラインレンタカー予約システムを導入しました。<https://rent-a-car.jp/reserve.v2/shops/156> 導入以前、レンタカーの予約はほとんどの場合、電話で受けており、手間がかかるだけでなく営業時間外に予約を受け付けることができず機会損失が発生していました。24時間オンライン上で予約が完結できるようになり、ユーザー側の利便性を改善することができました。

仮設住宅からの引越しサポートについては、石巻市からの委託事業終了後、引越しや町内会行事の利用に限り、貨物車両の利用を1日500円(通常単価の8分の1)で貸出する方式に変更し、新しい生活へ向けての支援を継続して行いました。

加えて、新たな試みとしてアイシン・エイ・ダブリュ株式会社の協力のもと、「観光ナビ」という、観光情報を案内するルートナビゲーション機能付きタブレットの貸出を試験的に実施しました。Reborn-Art Festival2019の会期に併せ、レンタカーの無料オプションとして貸出を行いました。アート情報や石巻地域の歴史や豆知識な

どをナビで発話させることで、通常のレンタカーを利用するだけでは知りえない情報を知ることができたと好評でした。一方でルート作成に工数がかかり、観光情報が十分でなかったという反省点があげられます。次年度は地域の方の協力を得て、震災伝承のコースを作成し利用を促進してまいります。

貸出件数 : 658 件 7,513 千円 (売上目標達成率:83.6% 対前年比:119 件増 対前年比 22%増)

(2) 生活再建のためのサポート・レンタカー

経済的に車を保有するのが難しい方へ向けた低価格のレンタカー貸出であるサポート・レンタカーの内容をリニューアルしました。改定前は 15,000 円からスタートし、3ヶ月ごとに料金が 5,000 円ずつ上がっていく形態をとっていましたが、値上げの幅についていけず、金銭的負担が大きくなってしまおう方が現れ今後のサービス提供について議論し、値上げの仕組みを撤廃しました。その代わりに 6 カ月間限定で、1ヶ月 15,000 円(税込)で貸出をするという仕組みにリニューアルしました。また、これまでの就労用途の他、発達障害をお持ちの方の社会復帰の第一歩目として車を使いたい、というニーズにも対応しました。その方が更新に来店されるたびに元気になっていく様子を拝見し、車で自由に外出できることの心身に与える好影響を目の当たりにしました。サポート期間終了後、就職し一定の収入を確保し、ソーシャル・カーリースプログラムに移行される方もいっしょに、息の長い支援をすることが出来ていることが嬉しく思います。

サポート・レンタカー利用人数 : 5 名(前年度比:+4)

2. リース事業

NPO を中心に 50 台のリースを通年続けるとともに、安心リニューアルを実施

(1) ソーシャル・カーリース

ソーシャル・カーリースのサービス内容としてメンテナンスパックを新設しました。月額 5,000 円で、6 ヵ月、12 ヵ月点検や一定金額未満の整備・費用を協会が負担することができるようになりました。ご利用いただく方から意見に整備などを任せてしまいたい、という声をいただいたことにより作成したものととなります。「ゆうちょビズ」を導入し、口座引き落としサービスが利用できるようになり、利用者が毎回振込み手続きをする手間の軽減を図りました。

新規の貸出対象は、石巻に移住された方、支援活動を行う団体が中心となりました。新規契約件数は 18 件となりました。一方で 2018 年に発災した西日本豪雨で被災された方、団体へのリース車両が一定数返却となり、全体の件数で増加をすることができず、件数目標を達成することが出来ませんでした。当初 2019 年の災害の被災地でのリースを数件見込んでおりましたが、発災が例年より遅く、かつ期間が長期化したこともあり新規のリース契約は 2 件にとどまりました。2019 年末時点で、まだ車の買戻しの目途が経っていない方も多く、短期間で車の貸出についてニーズが出てきた場合、これに対応していく計画としています。

災害発生時の無償貸出支援後のカーリースについて、車が見つかるまでの短い期間で借りられる制度が欲しいという声をいただき、3ヶ月間からの短期間、料金も通常より低価格に抑えたカーリースプログラムの提供を開始しました。

(2) 生活困窮者支援のためのカーリース

生活再建のためのサポート・レンタカー制度の見直しに伴い、生活困窮者へ向けた支援の準備を進めてまいりました。石巻圏域は生活に車が必要不可欠な地域であり、車がないことが就労の妨げになることが少なくありません。ただ、経済的理由から車を使えず、生活困窮のスパイラルから抜けられない方がいることを社会福祉協議会(以下、社協)等のヒアリングを通じて確認しました。そういった方々への支援を始めるため、石巻市

の NPO「フードバンクいしのまき」との協働の枠組みを整理しました。これは、協会から車を借りるにあたって必要な費用(車両本体代、任意保険代、駐車場代)分の食材をフードバンクより現物支給することで食費を削減し、浮いたお金のなかで車を借り、就職活動やその後の通勤での移動に車を活用してもらうプログラムです。実際の金銭的負担は変わらないまま車を利用できるようになるため、生活状況の改善に効果があると予想しています。次年度は県内の生活支援機関と連携しながら、この枠組みで助けられる人へアプローチを開始していきます。

契約件数 : 44 件 売上 9,321 千円 (達成率:88% 対前年比 1 件減 2.7%減少)

3. 損害保険事業

非営利団体の保険代理店として特徴ある商品販売や提案を行う。事故防止の取り組みを実施

2019 年度は、災害支援 NPO からのニーズが高かった災害支援時に適用になる保険商品の開発に向けたディスカッションを実施していきました。東京海上日動株式会社、三井住友海上株式会社に対して提案を行い、現時点での保険開発には前向きではないとの回答をうけ、開発に向けた交渉を終えました。それ以外についてはソーシャル・カーリースで貸出をする車両に自動車保険を付保し、事故対応などを適切に行ってまいりました。コミュニティ・サポート事業部と連携し、東京海上日動株式会社から講師を派遣してもらい、交通安全講習を実施しました。宮城県中央共同募金会と「募金百貨店プロジェクト」を締結し、自賠責保険の一部を赤い羽根共同募金会に寄付する取組も始めました。

契約件数 : 41 件 (自動車保険:27 件 自賠責保険:12 件 新種保険:2 件 前年度比:205%)

4. 地域連携カーシェアリング

営利事業者が進出しない交通不便地域でカーシェアリングサービスを提供

長期滞在型宿泊施設や陸路で入島することができない離島に、カーシェアリングステーションを設置しました。それにより、施設利用者や来島者の滞在の利便性や満足度を向上させることを目的としています。石巻市内の宿泊施設運営者、網地島で活動を行う NPO と連携し、ステーションを設置・貸出を始めました。

宿泊施設でのカーシェアリングは当初予定していた客層が宿泊せず、稼働せず 12 月末でステーションを閉じました。網地島は 12 月から営業を開始し、島民の健康をケアする訪問員さんや、離島振興で協力をしている大学関係者などが利用しており、春に向けて稼働が期待できる状況となっています。

■ モビリティ・レジリエンス事業

2019年テーマ「事後対応から事前の体制作りへリニューアル！」

これまで発災後に対処していた体制を事前に備える体制作りを行いました。西日本豪雨で連携した岡山県・自動車販売業界と災害時における連携協定の締結し、現場へ入るための物資や貸出し書式などのフォーマットやマニュアルを整える等の準備を行いました。また、ジャパンプラットフォームへ加盟し、発災時における資金調達安定化を試みました。

8 月以降に3つ大きな災害(令和元年 8 月豪雨・台風 15 号・台風 19 号)が立て続けに発生し、できる限りの対応を行いました。

石巻の事務所が被災し、度重なる災害で人手も車も不足する中であっても、一步前に進むための新たな取り

組みへのチャレンジを行ってまいりました。具体的には前年度に西日本豪雨での地域連携の転用、新たな資金調達手段としてクラウドファンディングの実施、複数拠点での展開、過去の災害で対応経験のある現地スタッフによる遠隔サポート体制等です。事前の体制作りが発災後の対応に大きな影響を与えることを実感できたため、今後の体制づくりのための学びの多い1年となりました。

1. 災害支援

- ・防災協定における地域連携構築の基礎作り
- ・資金調達における体制の構築
- ・対応のスピード化と複数地域への対応を見据えたオペレーションの完成

(1) 令和元年8月九州豪雨

活動期間 : 9月7日～11月31日

活動地域 : 佐賀県(武雄市、大町町、多久市、福岡市)、福岡県(広川町)

災害サポート・レンタカー貸出件数 : 105件 活用台数 : 64台

8月27日から九州北部で発生した集中豪雨の被災への対応として、被害が大きかった佐賀県武雄市に拠点を構え、車の無償貸し出し支援を行いました。合計64台の車を活用し、延べ105件の無償貸し出しを実施しました。昨年の平成30年7月豪雨でできた「岡山モデル」(県・軽自動車協会・自販連との4者連携モデル)を佐賀県内でも展開し、発災後数日で貸出し拠点の調整などができました。また、車の運送については、これまでの連携実績があったため、オートバックスセブン株式会社ともすぐに車両運送についての連携調整が整い、今回は過去最短となる発災から9日目で貸出しを開始することができました。車の募集については、専用ウェブページの立ち上げを行い、導線の整理をおこないました。また、武雄市にはディーラー店舗が集中し、被災店舗が数件あった状況にも関わらず、佐賀自販連や各ディーラーからの協力も得ることができ、13台の車を提供いただきました。

他にも一度貸出しが始まると、「車を借りたい」という電話が殺到し、昨年の支援活動時には電話回線がパンク状態となったため、グーグルフォームによるウェブ申込や、人出不足を補うため電話対応スタッフをこれまでに災害支援を手伝っていただいた現地の臨時スタッフに依頼するなど、事業が円滑に進むように業務改善をしました。

また、車の台数がニーズに対して大幅に不足したため、申込のあった近所の方同士には積極的に車の共同利用を進め、ボランティア団体が車の管理者となり、地域住民と共同利用する取組も実施しました。

助成金 日本財団「令和元年・台風被害に関わる活動支援」、中央共同募金会「令和元年8月豪雨災害ボランティア・NPO活動サポート基金」

寄付 Yahoo!ネット募金

協力 オートバックスセブン株式会社 株式会社ゼロ ルート産業株式会社 三共油化工業株式会社
佐賀県 武雄市 日本自動車販売協会連佐賀県支部 エーモン工業株式会社

(2) 台風15号支援

活動期間 : 9月27日～11月30日

活動地域 : 千葉県(鴨川市、富津市、鋸南市)

災害サポート・レンタカー貸出件数 : 5件 活用台数 : 5台

9月9日に上陸し千葉県を中心に甚大な被害を出した台風15号被害。佐賀県での支援の最中であ

り、人員不足のため拠点は設置せずに社会福祉協議会やボランティアセンター、ボランティア団体に軽トラックなどの貨物車両の貸出しを実施しました。特に佐賀県からの車の運搬では、ボランティアによる自走→フェリーによる車の運送→ボランティアによる自走が行われました。

【助成金】 日本財団「令和元年・台風被害に関わる活動支援」

【寄付】 真如苑

【協力】 商船三井株式会社

(3) 台風 19 号支援

活動期間 : 10 月 25 日～ ※継続中

活動地域 : 宮城県(石巻市、丸森町、角田町)、栃木県(栃木市)、福島県(いわき市)

災害サポート・レンタカー貸出件数 : 123 件 活用台数 : 112 台 ※12 月 31 日時点での数値

10 月 12 日に上陸し関東、甲信、東北などで記録的な大雨となり、甚大な被害をもたらした台風 19 号災害。石巻市内でも道路の冠水による床上・床下浸水被害や土砂崩れなどが発生し、当協会の事務所も床上 10cm、車 14 台が一時水没する被害が発生しました。事務所が復旧するまでに数日を要し、電気も約 1 カ月一部使用できない状況の中ではありましたが、宮城県内の支援から開始しました。25 日には石巻市内で最初の貸出しを行い、11 月 9 日に丸森町を拠点に貸出しを開始、12 月 8 日には栃木市での貸出しを開始、12 月 22 日にはいわき市での拠点で貸出しを開始しました。

複数拠点での貸出しに対応できるようにより多くの車を集めるため、車の提供者と運搬する架け橋ドライバー(ボランティア)とのマッチングも実施し、車の寄付も順調に集まりました。また、支援規模が大きくなるにつれて金額も大きくなる活動費については、ジャパン・プラット・フォームへの加入と、クラウドファンディングの実施により予算を確保できる体制を整えました。3 拠点それぞれに地元の方を臨時スタッフとして雇用し、貸出しの体制を整えることができました。

【助成金】 日本財団「令和元年・台風被害に関わる活動支援」、

中央共同募金会「台風 19 号災害ボランティア・NPO 活動サポート基金」、ジャパン・プラット・フォーム

【寄付】 Yahoo!ネット募金、キャンプファイヤークラウドファンディング

【協力】 オートバックスセブン株式会社 株式会社ゼロ 宮城県中古自動車販売協会 太平洋フェリー株式会社
エーモン工業株式会社 日本ミシュランタイヤ株式会社 横浜ゴム株式会社 住友ゴム工業株式会社
株式会社ハンコックタイヤジャパン

2. 防災連携

(1) 岡山県・自動車販売業界と災害時における連携協定締結(1 月 17 日)

岡山県・日本自動車販売協会連合会岡山支部・岡山県軽自動車協会と 4 者で協定を締結し、西日本豪雨の際の連携を、今後発生する災害の際に連携できるような体制を築くことができました。

(2) 石巻市防災フェア(3 月 10 日) ・ 石巻市総合防災訓練(11 月 3 日)

石巻市主催の防災フェアに電気自動車からの給電訓練で参加し、災害時の電気自動車の活用方法について紹介しました。

防災訓練については、台風 19 号によって石巻市内でも冠水や土砂崩れなどの被害が一部発生したため、全体としての防災訓練は中止となりました。その影響で各地域での防災訓練も中止となる中、例年通りの開催

となった向陽町町内、のぞみ野町内会の2カ所で電気自動車からの給電訓練を実施しました。

12月の時点で電気自動車を活用し活動しているカーシェア会が5カ所となり、次年度はそれを活かした防災訓練を実施していきたいと思います。

(3) 視察対応

2回（11/2 愛知県議会議員、11/18 東京都武蔵野市）

■ 事務局

2019年テーマ「広報・ファンドレイジングのリニューアル、組織のスキル&チームカアップを実現し、
組織基盤を飛躍させる。」

2019年は専門家の伴走支援や外部組織への視察や研修を受け、組織の体制づくりの基盤を学びました。中でも広報、ファンドレイジング面では不要になった車の新しい活用方法として「リサイクル寄付プログラム」を開始、支援者コミュニティづくりのための「カーシェア・ピットクルー」の開始など新しい取り組みを始めました。

1. ファンドレイジング

1月～3月の期間で宮城県共同募金会が開催する「みやぎチャレンジプロジェクト」による寄付の呼びかけを実施しました。この期間のあいだ、宮城共募を通じての協会への寄付が寄付控除の対象となり、新規寄付者やこれまで関係性はあった方々より支援をいただく機会となりました。

新たに自動車のリサイクル寄付という取組を6月より始めました。これは、車検切れや車両状態の不調などの理由から、現場で活用するのが難しい車両を各都道府県の優良自動車リサイクル業者に買い取られ、買取り料金が協会の活動資金として寄付される取組です。取組を進めるにあたり、各県の事業者とのパートナーシップ協定の締結を進めています。6月に宮城県の株式会社アイエス総合、8月に福島県の株式会社ナブロアース、10月に茨城県のカーレポ株式会社との協定を結びました。12月までに50台の車がこの仕組みで寄付されました。

また、夏以降に災害が多発したため、適宜 Yahoo! ネット募金のTポイント寄付のサイトを立ち上げ、寄付の呼びかけを実施しました。12月には台風19号支援のためのクラウドファンディングを実施し、目標金額を達成することができました。Tポイント以外については初めての取組だったため、反省点も多く出ましたが次回以降、改善していきたいと思います。

昨年度に引き続き株式会社シンファンドレイジング・パートナーズによる、ファンドレイジングの伴走支援を受けました。その中で、ステークホルダーピラミッドを作成し、支援者層の把握やファンドレイジングの計画づくりなどを行いました。新しい取り組みとして寄付者やボランティア、車提供者、協賛メーカーなどの支援者を「カーシェア・ピットクルー」として活動への協力者を募っていく取組を開始しました。枠組みはできたものの、管理方法、コミュニケーションの場の構築は次年度の事業として実施していきます。また、スタッフの一人が半年間ファンドレイジング・スクールに通い、ファンドレイジングに関する知識を学びました。

【助成金】 日本 NPO センター「大和証券フェニックスジャパン・プログラム 2018」、復興庁被災者支援コーディネート事業

2. 広報

ホームページのリニューアルを実施しました。大きなリニューアル点としては、1. レンタカー予約のしやすさ（システム導入）、2. CCS 導入、視察、企業向けの案内、寄付の分かりやすさ、3. 問合せのしやすさ、4. 動

画の4点です。HPリニューアル後、協会へ CCS の取組みについてや、車の寄付についての問合せ、レンタカーの新規利用者が増加しました。

■講演■

合計 16 件

- ・1/17 「環境首都創造フォーラム 2018 年度 in 京都」 登壇(吉澤 武彦)
- ・1/23 「シェアリングエコノミー先進事例セミナー(主催:青森県)」 登壇(吉澤 武彦)
- ・2/17 復興庁「新しい東北」交流会 登壇・出展(吉澤 武彦)
- ・3/17 「石巻からはじまる復興まちづくり(主催:日本建築学会東北支部)」 登壇(吉澤 武彦)
- ・5/23 石巻市立桜坂高校 寄付教育 講師(石渡 賢大)
- ・7/18 第 34 回シンポジウム「これから 30 年の未来を描く」(主催:日本イノベーション学会) 登壇(吉澤 武彦)
- ・9/26 熊本県・人吉球磨企業誘致連絡協議会合同セミナー 講師(吉澤 武彦)
- ・10/17 第 99 回ヒルズブレックファースト 登壇(吉澤 武彦)
- ・10/17 復興庁 職員向け「復興創生研究会」 登壇(吉澤 武彦)
- ・11/19,20 群馬県立高崎高校被災地見学研修 講師(吉澤武彦)
- ・11/8 ローカルベンチャーサミット 2019 登壇(吉澤 武彦)
- ・11/11 SHARE SUMMIT 2019 登壇(石渡 賢大)
- ・11/27 RUM アライアンス 例会 登壇(吉澤 武彦)
- ・12/18 亜細亜大学 創造学部ソーシャルイノベーション論 講師(吉澤 武彦)
- ・12/19 福島浜通り次世代モビリティ月例セミナー 講師(吉澤 武彦)
- ・12/23 社会的課題解決セミナー 登壇(吉澤 武彦)

■受賞■

第9回 地域再生大賞 優秀賞受賞

■メディア掲載■

新聞掲載 : 90 件 その他冊子掲載 : 8 件 TV・ラジオ放送 : 13 件

※TV、ラジオについては記録漏れもあり実際にはもう少し多いです。

【助成金】 日本 NPO センター「大和証券フェニックスジャパン・プログラム 2018」、「東日本大震災現地 NPO 応援基金」

3. 労務・人事

就業規則に則り適切な運用に務めました。昨年の事業で就業規則を変更しましたが、さらに運用をしやすくするために賃金規程の見直し、フレックスタイムの見直しを行いました。

後半は株式会社 BOLBOP の伴走支援を受け 2020 年 1 月より運用開始予定の人事制度を作成しました。

【助成金】 日本 NPO センター「大和証券フェニックスジャパン・プログラム 2018」、「東日本大震災現地 NPO 応援基金」

4. 会計・税務

前年に引き続き、税理士の指導によりコンプライアンス確保を推し進めました。また、税理士報酬を補填する事業助成が当年度 9 月をもって終了しました。そのため、必要書類の確認など、法定事務の執行体制も整えました。

5. 総務・組織運営

毎週月曜日のウィークリーミーティング、毎日の朝のミーティング、事業部ごとのミーティング、毎月の経営会議などスタッフ同士で共有・話し合う時間をとりました。特にミーティングの時間を活用しスタッフの関係性構築のため、1. ミーティング時のチェックインの実施、2. 定期的に自分のことについて話す「自分×団体プレゼン」を実施しました。

また、2020年度の事業計画と個人目標作成のため、株式会社イミカの研修と伴走支援を受け、スタッフが代表理事と意見交換を行いながら次年度の事業計画の立案を行いました。個人目標については、各事業部リーダーとスタッフが面談を行いながら作成し、各リーダーが主体的に事業部運営をする経験を得ることができました。

■関連した研修・視察■

NPO 法人 CR ファクトリー主催「コミュニティ・マネジメント塾」受講

京都府京丹後市「ささえ合い交通」(NPO 法人気張る！ふるさと丹後町)視察訪問

大阪府太子町「SASAE 愛太子」×訪問型サービス D(太子町社会福祉協議会)視察訪問

NPO 法人マドレボニータ 組織運営視察

NPO 法人 CR ファクトリー 組織運営視察

6. 車両管理

ホームページのリニューアルに伴い、車の寄付導線がウェブでできたことや、災害が多かったため車の寄付が多く集まりました。また、ユーザー車検によるコストダウンや、車検前の事前点検の実施により、軽自動車、車検費用は6~8万円代に納まるケースが多数を占め、また自動車保険料についても割引率がカーシェアフリートで53%→66%へ、レンタカーフリートで53%→61%と利用者の方々とスタッフの安全運転のおかげ割引率が上昇しました。ただし、契約更新後の事故などが多発したため、次年度以降は費用が上がるが見込まれますので安全運転の呼びかけを実施していきたいと思います。

新規登録車両台数 : 146 台

車両活万台数 : 240 台 (前年度比 112 台増加) ※期末数値

(1) 学生整備プロジェクト

春と秋の2回、石巻専修大学 理工学部 機械工学科自動車工学コースの協力の下、タイヤ交換や日常点検を行う学生整備プロジェクトを行いました。本プロジェクトで使用したタイヤやホイールを始めとする用品は各メーカー様にご協賛いただきました。また、新しい取り組みとして春の実施時には、市内でCCSを実施しているグループからボランティアドライバーの方々にお集まりいただき、「第1回ボランティアドライバーの集い」を開催しました。東京海上日動火災保険株式会社様より、安全運転のポイントについて講話いただき、集まった皆様から自身が運転中に怖いと感じた体験やヒヤリ・ハットを共有し合いました。

・春の学生整備プロジェクト 実施日 : 4月17日(水)、18日(木)、19日(金)

参加車両台数 : 69 台 学生 : 23 名参加(2、3、4年生、大学院生)

・秋の学生整備プロジェクト 実施日 : 11月20日(水)、21日(木)、22日(金)
参加車両台数 : 50台 学生 : 16名参加(3、4年生)

協賛企業

日本ミシュランタイヤ株式会社	トピー実業株式会社	エステー株式会社
ルート産業株式会社	三共油化工業株式会社	株式会社カシムラ
PIAA 株式会社	パナソニックカーエレクトロニクス株式会社	エーモン工業株式会社

■主だった年間スケジュール

- 1月 災害時における被災者等の移動手段の確保に関する協定締結(岡山)
活動報告会開催(東京/大阪/石巻)
- 2月 石巻エコEVカーシェアリング検討委員会 開催、総会開催
- 3月 石巻市防災フェア 出展、活動報告会開催(東京)
- 4月 春の学生整備プロジェクト開催(石巻専修大学)、石巻市市長報告
宮城県共同募金会「募金百貨店プロジェクト」県内第1号登録・締結式
OPEN JAPAN・日本カーシェアリング協会 合同活動報告会開催(東京)
Us 4 IRIOMOTE プロジェクト キャンペーン軽トラック出発(KEEN JAPAN)
石巻市まちづくり懇談会 政策提言、アースデイ東北 出展
- 5月 宮城県中央共同募金会と「募金百貨店プロジェクト」締結
- 6月 株式会社ナプロアース(福島県)「リサイクル寄付プログラム協定締結」
ソフトバンクつながる募金スタート
- 7月 コミュニティ・カーシェアリングの普及促進実施に関する協定書締結(大津市)
山下南カーシェア会設立
- 8月 令和元年8月九州豪雨災害サポート・レンタカー貸出し開始(佐賀県)
- 9月 『コミュニティ・カーシェアリング』スポンサー セレモニー開催
台風15号災害サポート・レンタカー貸出し開始(千葉県)
- 10月 石巻エコEVカーシェアリング検討委員会 開催
台風19号にて事務所床上10cmの浸水
福島県浪江町『コミュニティ・カーシェアリング』説明会開催
台風19号災害サポート・レンタカー貸出し開始(宮城県)
- 11月 秋の学生整備プロジェクト開催(石巻専修大学)、永江ささえ愛カーシェアクラブ設立(米子市)
- 12月 台風19号災害サポート・レンタカー貸出し開始(栃木県栃木市)
台風19号災害サポート・レンタカー貸出し開始(福島県いわき市)
林際カーシェア会設立(南三陸町)、葛川イキイキサークル設立(大津市)

以上

令和2年2月25日
一般社団法人日本カーシェアリング協会
代表理事 吉澤武彦